

平成29年度 学校経営の重点目標及び重点的取組等（4・5月）

宇佐市立南院内小学校

教育目標 ふるさとに誇りを持ち 夢に向かってたくましく生きる 心豊かな南院内っ子の育成

- 重点目標
- ・基礎基本を定着させ、活用力の向上を図る(確かな学力)
 - ・共同的・自治的な活動を推進し、「やり抜く力」を育成する(豊かな心)
 - ・望ましい生活・運動習慣を身につけさせ、体力の向上を図る(健やかな体)

家庭・地域を含めた「目標協働達成4点セット」

重点目標	達成指標	重点的取組	到達イメージ (子どもがどうなったか)	取組指標 (そのため教師は何をするか)	担当	統括	取組状況	取組指標に対する 成果⇒○ 課題⇒△	
基礎・基本の定着と活用力の向上	○単元末テストで、80点以上の子どもを80%以上、50点以下を10%以下にする。 資料① ○「発表や質問した」と回答する子どもを90%以上にする。 資料① ○標準学力調査で全学年とも標準スコアを昨年度より上回る。 資料①	学校	○学習規律を徹底させる。(院内ブロックの授業のきまりの徹底)	話す人の顔を見て、話を聞くことができる。	○1時間の授業の中で1回以上①「ピン・ベタ・グーの姿勢をする。」②「呼ばれたら「はい」の返事をする」を指導する。 資料② ○授業セルフチェックシートを1か月に1週間チェックをし、月末に交流会を行う。 資料③	尾形	尾形	○単元末テスト ・80点以上⇒91.7% ・50点以下⇒0% ○友だちに質問・意見⇒80% ○よい姿勢の評価 ・できた 職員⇒75% 児童⇒78% ○自分の考えをノートに ・書いた 職員⇒85% 児童⇒80% ○家庭学習時間⇒・守れた 46% ○ていねいな字⇒・守れた 71% ○メディアと接する時間⇒・87分	○セルフチェックを行い3点の指標を意識して取り組むことができた。交流の中で他学年の取組状況を知り参考になった。 △セルフチェックを行うことで意識的にできている子どももいるが、言われたときのみで持続できない子どもがいるので引き続きの指導が必要である。 ○自分の考えをノートに書いたかでは「書けた」と回答した児童が多かった。△字の丁寧さや見やすいノートの書き方の指導と書く時間の確保が必要である。 ○話し合いの話型については、教室前面に掲示し、常に意識できるように呼びかけ意識している。 ○前に出て説明させる機会が増え、先にノートに書いて隣とペア学習することで子どもも意欲的に発言している。 ○メディアコントロールチェックをし、家庭にメディアを使う時間や家庭学習を呼びかけることができた。 △メディアと接する時間が多い。引き続き呼びかけ、指導が必要である。 ○毎日の宿題チェックで忘れ物、字などの内容が改善してきている。
		学校	○子どもが主体的・対話的に学び合う授業を展開する。	自分の考えを根拠となる物を示しながら書いたり説明したりできる。	○課題解決に向けて、ヒントや資料を提示し、自分の考えを書かせる手だてと時間を設定する。1ヶ月に1回ノートの見合いをする。 ○話し合い活動のめざす姿を提示し、1時間に1回以上、教室の前に出て、資料を示しながら説明させる。	尾形 田中			
		家庭	○家庭学習の習慣化	学年×10+10分の家庭学習ができる。 資料⑤	○テレビの時間を決め、家庭学習の時間を確保をする。メディアコントロールについて1か月に1週間チェックをする。 資料⑥ ○毎日、字を丁寧に書いているか宿題のチェックをする。 資料⑥	田中			
共同的・自治的な活動推進と「やり抜く力」の育成	○「きちんとあいさつができた」と回答する子どもを90%以上にする。 資料⑦ ○「学校が楽しい」と回答する子どもを100%にする。 資料⑦	学校	○あいさつと返事の習慣を身につけさせる。	○止まる、相手の顔を見る、あいさつする、礼をするという一連の動作ができる。	○教師が毎日手本を示し、上手にあいさつができた子をほめる。 ○名前を呼ばれたら、みんなにはっきりと聞こえる大ききで「はい」と返事ができるように指導する。 ○一斉下校時、週番があいさつチェックを行う。 ○ワンストップワンルック運動(一度立ち止まり相手をしっかり見てあいさつ)に取り組む。	川野	川野	○あいさつ 100% ○学校が楽しい 100% ○一斉下校時、週番によるワンストップワンルック運動の指導が定着してきている。 ○あいさつの取組は定着している。 ○各種行事等に多くの参加を得た。(第1回ふれあい活動…26名参加)	○教師が一斉下校の時、一人一人に挨拶をして手本をみせたり、日頃も一人一人に挨拶したりしている。また、よくできた子どもを褒めている。子どもたちも立ち止まり大きな声で挨拶できている。 ○PTA総会で確認している。家庭でもしっかり取り組んでいる。 ○地域の人に帽子をとって挨拶できる子どももいる。 △声が小さい子どもや先に挨拶できない子どもがいるのが課題である。
		家庭	○あいさつ運動を推進する。	○地域の人にすすんであいさつができる。	○毎日、「おはよう」「おやすみ」のあいさつを親子で交わす。	川野			
		地域	○あいさつ運動を推進する。		○子どもと出会った時、あいさつを交わす。 ○授業参観、入学式などの学校行事に参加し、子どもとふれあう。	川野			
生活・運動の習慣の確立と体力向上	○体力テストにおいてA・B層を増やす。(昨年度63%) ○毎日歯みがきをしている子ども100%にする。 資料⑧	学校	○歯みがきに取り組む。 ○1校1実践(なわとび)に取り組む。 ○R1(50m走・立ち幅跳び)に取り組む。	○目標を設定し、進んで運動に取り組む。 ○立ち幅跳びの記録を10cm以上伸ばす。	○給食後、歯みがきタイムを3分間設定しチェックシートに記入させる。 ○昼休みに、体力アップタイム(やんだけタイム)を5分間設定し、大縄跳び・50m走・サーキットの記録をとる。 資料⑨ ○体育館に立ち幅跳びゾーンを設定し、毎月1回記録をとる。	横尾 惠藤	惠藤	○毎日歯みがき ・学校 100% ・家庭 76% ○50m走が全国平均を上回る ・58% ○立ち幅跳びが全国平均を上回る ・42%	○給食後、歯みがきタイム3分の実施し、チェックシートにシールを貼って確認している。 ○やんだけタイムを大なわとび(月・金)、50m走(火)、サーキットコース(木)とバランスをとり目標を立てて練習をしている。大なわは200回/3分を目指している。 △50m走・立ち幅跳びの両方も全国平均を上回る割合が低く、体育や「やんだけタイム」等での継続した取組が必要である。 ○チェックシートなどを利用しながら家庭でも歯みがきを呼びかけている。
		家庭	○歯みがきに取り組む。 資料⑤		○食後、歯みがきをするように声をかける。	横尾			